
ダンカンタイルコート

標準仕様書及び施工要領書

タイル部分補修強度向上に向けて

2014. 05

保存科学株式会社

〒468-0043 名古屋市天白区菅田一丁目906番地

保存科学ダンカン事業部

Tel・Fax 052-808-0300

e-mail hozonkagaku@wings.ne.jp

標準仕様及び施工要領書

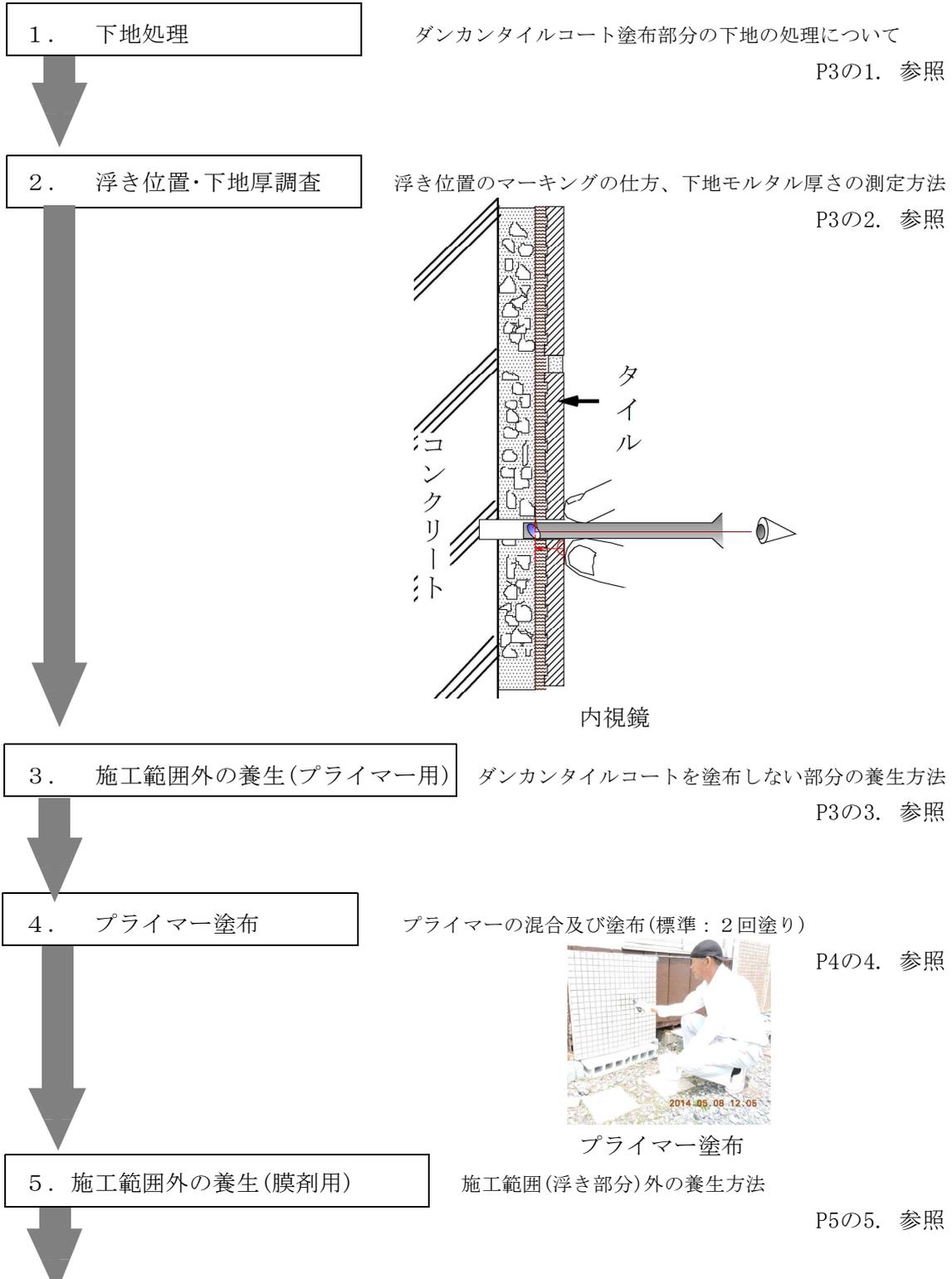
目次

ダンカンタイルコートの施	P 1
フローチャート	P 1
下地処理	P 3
浮き位置・下地厚調	P 3
施工範囲外の養生(プライマー用)	P 3
プライマーの塗布	P 4
施工範囲外の養生(膜剤用)	P 5
造膜剤の塗布	P 5
アンカーピン打設とつや消し剤の塗布	P 6
養生材撤去・清掃	P 7
塗布剤の養生	P 7
安全上の注意事項	P 8

ダンカンタイルコート

ダンカンタイルコートの施工

ダンカンタイルコートの施工は下記のフローにより行います。



ダンカンタイルコート

6. 造膜剤の塗布

造膜剤の混合及び塗布(標準：3回塗り)

P5の6. 参照



薬剤塗布



1回目塗布



2回目塗布



3回目塗布

7. アンカーピン打設とつや消し剤の塗布

アンカーピン打設とつや消し剤の混合及び塗布

P6の7. 参照

8. 養生材撤去・清掃

塗布範囲外の養生材の撤去

P7の8. 参照

9. 塗布剤の養生

塗布終了後

P7の9. 参照

ダンカンタイルコート

準備するもの。

- 打診調査用具：打診棒、野帳、同バインダー、チョーク、ウエス、養生テープ、写真機
ドリル、孔内清掃セット、内視鏡、15cm定規、スケール
- 混練用品：バケツ、ミキサー、特殊溶剤、プライマーA剤、B剤、造膜剤A剤、B剤、つや消し剤A剤、B剤、はかり、かき混ぜ棒
- 塗布用品：養生マスキング、養生シート、刷毛、ローラー、(防爆型ファン)、特殊溶剤、ウエス、
- ピン打用品：ピン、ワッシャー、ドリル、孔内清掃セット、

1. 下地処理

塗布面はエアージェット・高圧水洗浄等によりホコリ、汚れ等を除去してください。
洗浄工程終了後 被塗布面を自然乾燥させてください。

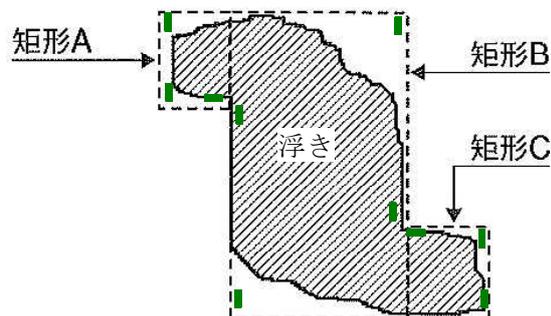
2. 浮き位置・下地厚調査

補修対象面を全面打診して浮き位置をマーキングする。

マーキングは右図破線のように矩形で表示する。

マークのコーナーのタイルには図中■のように養生テープで浮きのマーキングしておく。

ここでテープの端を重ね折りしてとりやすくしておくが良い。



目地部の交点を6mmの錐でコンクリートに到達するまで削孔した後、孔壁に削り粉が無くなるまで清掃し、内視鏡で下地モルタルの厚さを測定しコンクリートに2cm以上埋め込めるピンの長さを決定する。

3. 施工範囲外の養生（プライマー用）

プライマーは原則として補修を行う部分を含む面全体を施工する。

施工範囲外の部分については、ポリシートや養生テープ等でカバーしてください。

ガラス等にダンカンタイルコートが付着した場合には、直ちにウエス等で拭き取り、さらにシンナーで拭き取り最後に空拭きしてください。

薬剤（プライマー・膜剤・つや消し）塗布時の注意事項

- ①. 材料をよく攪拌してから使用ください。
- ②. 刷毛またはローラー塗りが基本ですが、吹きつけ塗装する場合は、低圧スプレー（噴霧器）を使用してください。吹きつけ塗装の場合は換気に十分注意して下さい。（防爆型ブロアー・仮囲い設置等）
- ③. 水・シンナー等で希釈しないでください。
- ④. 塗布量と塗布回数は、施行面の状態により変化する場合があります。現物での試験塗りにより、塗布量・塗布回数を決定してください。
- ⑤. 劣化が激しい面並びにタイル材質等により試験施工を実施して状態を確認してください。

4. プライマーの塗布

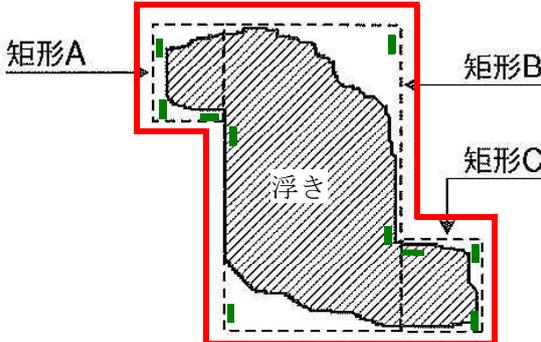
- ・薬剤は、A 剤と B 剤に分かれています。
- ・A 剤と B 剤の混合比率は、重量比で 7.0 対 1.0 です。
- ・塗布量に併せて計量の上、十分攪拌して使用してください。
- ・薬液混合後夏期は 1 時間以内、冬期は 2 時間以内で使い切ってください。
- ・プライマーの塗布量は、概ね 130 g/m² 程度を 2 回に分けて塗布してください。塗布は、追っかけ塗りとしても構いません。
- ・特に劣化の激しい塗布面については、塗布量に大きな差が出ます。従って、現物での試験塗りにより施工塗布量を決定してください。
- ・塗布は、刷毛またはローラーで行ってください。
ローラーを使用する場合は、ローラーの毛足の短いものにしてください。
造膜剤はプライマー塗布後 60 分程度間隔を開けて塗布して下さい。
- ・浮きのマーキングテープ(図中 ■)は塗り込まなくても良い。

プライマー

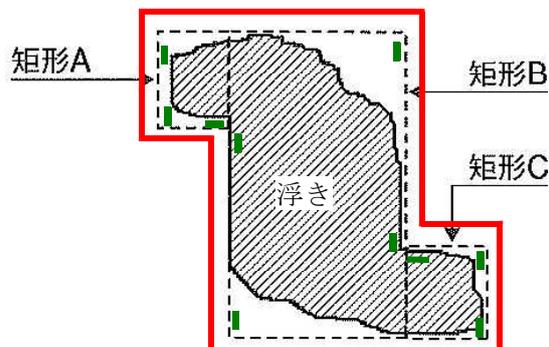
配合 A:B	塗布量		インターバル	用具
7 : 1	1 回目	60～70g/m ²	0分 (追っかけ塗り)	刷毛 ローラー

5. 施工範囲外の養生（膜剤用）

施工範囲外の部分については、ポリシートや養生テープ等でカバーしてください。

施工範囲は下図  のように前述の浮きのマーキングテープよりタイル1枚外側をテープリングする。

外側のマーキングが終わったら浮きマーキングテープをとりは外す。



ガラス等にダンカンタイルコートが付着した場合には、直ちにウエス等で拭き取り、さらにシンナーで拭き取り最後に空拭きしてください。

6. 造膜剤の塗布

- ・薬剤は、A 剤と B 剤に分かれています。
- ・A 剤と B 剤の混合比率は、重量比で 4.0 対 1.0 です。
- ・塗布量に併せて計量の上、十分攪拌して使用してください。
- ・薬液混合後夏期は1時間以内、冬期は2時間以内で使い切ってください。
- ・造膜剤は、所要の膜厚さを設定の上1回の塗布量を、概ね 270 g/m²程度とし重ね塗りのオープンタイムを120分程度としてください。
- ・塗布後の膜厚さは、塗布量 g × 0.62 μとして計算してください。
- ・特に劣化の激しい塗布面については、塗布量に大きな差が出ます。従って、現物での試験塗りにより施工塗布量を決定してください。
- ・塗布は、刷毛またはローラーで行ってください。
ローラーを使用する場合は、ローラーの毛足の短いものにしてください。

つや消し剤は造膜剤塗布後24時間以上おいてから塗布して下さい。

造膜剤

配合 A:B	塗布量		インターバル	用具
	回数	塗布量		
4 : 1	1回目	270g/m ²	各々120分	刷毛 ローラー
	2回目	270g/m ²		
	3回目	270g/m ²		

7. アンカーピン打設とつや消し剤の塗布

- ・造膜剤の硬化を確認後アンカーピン（日本ヒルティ株式会社 "HPS-1R" 径 5mm 躯体への穿孔深さ 20mm 以上）を座金直径 10mm を取りつけの上浮き部分（造膜剤塗布部分に）縦横@ 500mm 以内ごとに打設する。
- ・アンカーピン座金下部を養生の上（蒸気が座金下部から抜けることを想定する。）つや消し剤を塗布する。

つや消し剤の塗布

- ・薬剤は、A 剤と B 剤に分かれています。
- ・A 剤と B 剤の混合比率は、重量比で 7.5 対 1.0 です。
- ・塗布量に併せて計量の上、十分攪拌して使用してください。
- ・薬液混合後夏期は 1 時間以内、冬期は 2 時間以内で使い切ってください。
- ・造膜剤は、所要の膜厚さを設定の上塗布量を、概ね 120 g/m²程度とし
- ・塗布は、刷毛またはローラーで行ってください。
ローラーを使用する場合は、ローラーの毛足の短いものにしてください。

つや消し

配合 A:B	塗布量		インターバル	用具
7.5 : 1	1回目	120g/m ²	—	刷毛・ローラー

8. 養生材撤去・清掃

塗布工程終了後、塗布面以外の養生を撤去し周辺に付着した造膜剤等を布等で拭き取ってください。

床面にこぼれたり流れて留まっている場合は、滑りやすくなりますので入念に拭き取ってください。

9. 塗布剤の養生

塗布終了後、24 時間以上（20℃以上の場合）自然乾燥してください。

注意事項

1. 乾燥は、自然乾燥としてください。トーチ・バーナー等による強制乾燥はしないでください。
2. 24 時間以上経過後も、塗布面に濡れ色の残る場合がありますが時の経過とともに徐々に消えて目立たなくなります。

安全上の注意事項

作業中はゴーグルで目の保護をし、マスクゴム手袋を着用してください。

溶剤を使用していますので、換気を十分にしてください、火気の使用を禁止してください。

缶の開封後は水分ホコリが入り込まないように蓋をし直射日光を避け0℃以上40℃以下にして保管してください。

容器の廃棄は、中身を使い切ってから法規に従って処分してください。

体に付着した場合の処置

目に入った場合 速やかに清水で十分洗浄し状況に応じて医師の診断を受けてください

飲み込んだ場合 可能であれば、吐出し直ちに医師の診断を受けてください。

皮膚に付着した場合 シンナーで洗い落としてください。

吸入した場合 気分が悪くなった場合は、速やかに新鮮な空気のある場所に移動し清水でうがいをしてください。

基本的な化学薬品の取り扱い上の注意は、必ず守ってください。